

# 当大学における学生健診情報の結果返却と 結果閲覧率

How does health center of large-scale university  
return the health checkup result ?

當仲 香\* 大貫 亮\*\* 松本 可愛\* 齋藤 圭美\*  
久根木康子\* 室屋 恵子\* 池田 知穂\* 多川 実佳\*\*  
金子 康樹\*\* 押見 淳\*\* 清水 憲吾\* 河邊 博史\*

慶應保健研究, 33(1), 099-104, 2015

**要旨:** 大学は全キャンパス健康診断（以下、健診）終了後、約20日で健診結果を返却している。個人情報保護や郵送費の問題があり、2006年までは結果報告書を窓口で本人確認を行った上で配布していたが、自主的に取りに来る学生が非常に少なかった。近年、ほとんどの学生がパソコンを利用するようになったため、2007年からWEB閲覧サービスを開始した。年度別に、WEB確認率（ID固有）とのべ確認回数の推移をみたところ、スマートフォン対応のシステムを導入した2013年度は、前年に比較し、のべ確認回数が1～2回から3回と増加した。

健診結果報告書発行数において、過去6年の窓口発行、WEB閲覧の比率をみた。窓口発行が14～20%、WEB閲覧が80～87%と、WEB利用者が多かった。また、健診証明書（有料）において、窓口発行、自動発行機利用の比率をみた。2008年度では総発行数8,260枚（窓口発行が22.9%、自動発行機が77.1%）だったのに比し、2013年度は、総発行数8,275枚（窓口発行が6.2%、自動発行機が93.8%）と、総発行数に変化はないが、自動発行機利用者の割合はるかに高くなっていた。

学科系統別（文系、理系、医薬看系）にWEB閲覧率を比較した。理系や医薬看系のほうが、健康に興味がある者やWEB利用者が多いかと予測したが、どの系統も30～40%のWEB閲覧率であり、大きな差はみられなかった。

健診結果を閲覧しないと成績が確認できないなど、必ず閲覧する仕組みを検討することが必要である。

**keywords:** 健診結果, 書類発行, WEB閲覧

physical examination data, certification, Internet usage

## はじめに

当大学は全キャンパス健診終了後、法規に則り、約20日で健診結果を返却している<sup>1)</sup>。個人情報保護や郵送費の問題（転居しても住所登録を更新しない学生が少なくない上に、保護者住所への返却に本人が抵抗を示すケースがある等）があり、2006年度までは結果報告書を窓口で本人確認を行った上で配布していたが、自主的に取りに来る学生が非常に少なかった。

そこで、100%結果返却を目指す取り組みとして、2007年度からWEB閲覧サービス、2013年度からスマートフォン対応サービスを開始した。今回、過去6年間の結果閲覧状況について評価を行った。

## 対象と方法

調査期間は2008～2013年度、調査対象となるデータは書類発行数、WEB閲覧数、アクセスログとした。学生への健診結果通達手段は、報告書は窓口発行とWEB閲覧、証明書は窓口発行と自動発行機による発行がある。今回は、健診結果が本人へどの程度返却されているかを窓口発行数、WEB閲覧数、自動発行機発行数別にまとめた。また、年度別に、WEB確認率（ID固有）とのべ確認回数の推移をみた。また、学科系統別にWEB確認率を比較し、WEB

閲覧において、アクセスログ解析を行い、端末、接続先を分析した。

## 結果

### 1. 健診結果を閲覧した者の割合(推計)(図1)

健診結果が本人へどの程度返却されているかを推計した。推計1として、(結果報告書の発行数+WEB閲覧者数)/受診者数、推計2として、(推計1+証明書発行数(窓口発行数、自動発行機発行数))/受診者数を算出した。過去6年において、受診率は毎年同じ傾向であり、推計1が50%前後、推計2が75～80%と、ともに大きな年度での変化はみられなかった。

### 2. 結果報告書窓口発行、WEB閲覧利用率(図2)

健診結果報告書発行数において、窓口発行、WEB閲覧の比率をみた(重複、複数発行あり)。過去6年において、窓口発行が14～20%、WEB閲覧が80～87%と、WEB利用者が多かった。しかし、窓口発行数は、少しずつ割合が多くなっていった。

### 3. 証明書窓口発行と自動発行機利用率(図3)

健診証明書(有料)において、窓口発行、自動発行機利用の比率をみた。2008年度では総発行数8,260枚(窓口発行が22.9%、自

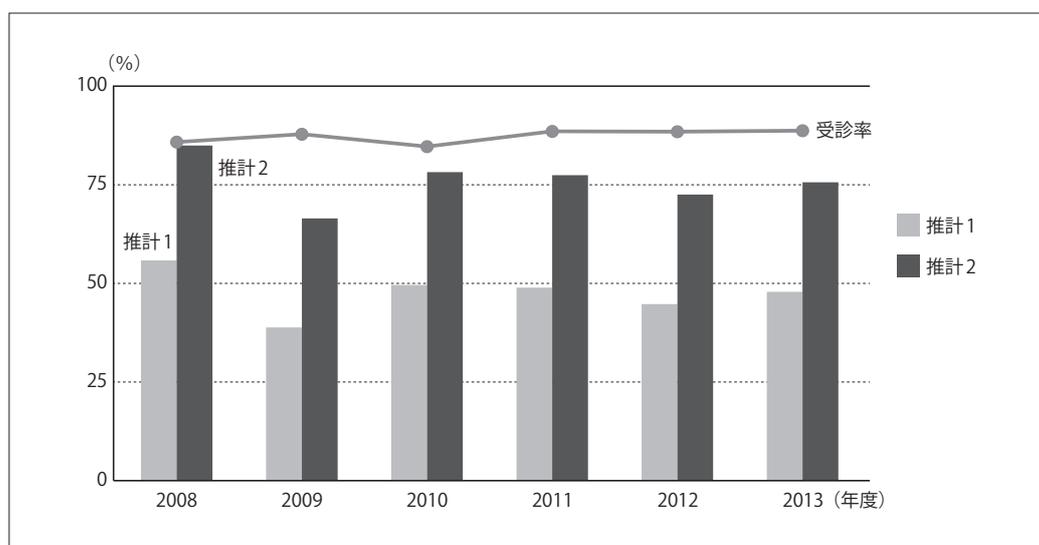


図1 健診結果を閲覧した者の割合(推計)

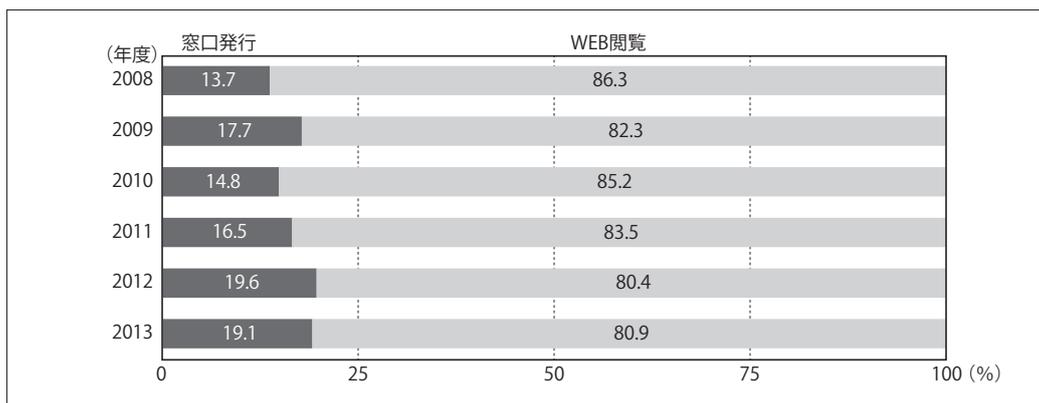


図2 結果報告書窓口発行, WEB閲覧利用率

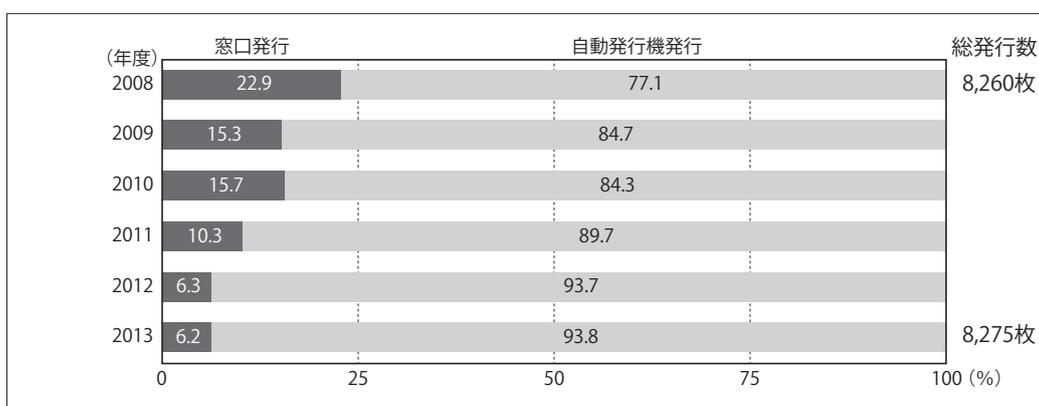


図3 証明書窓口発行, 自動発行機利用率

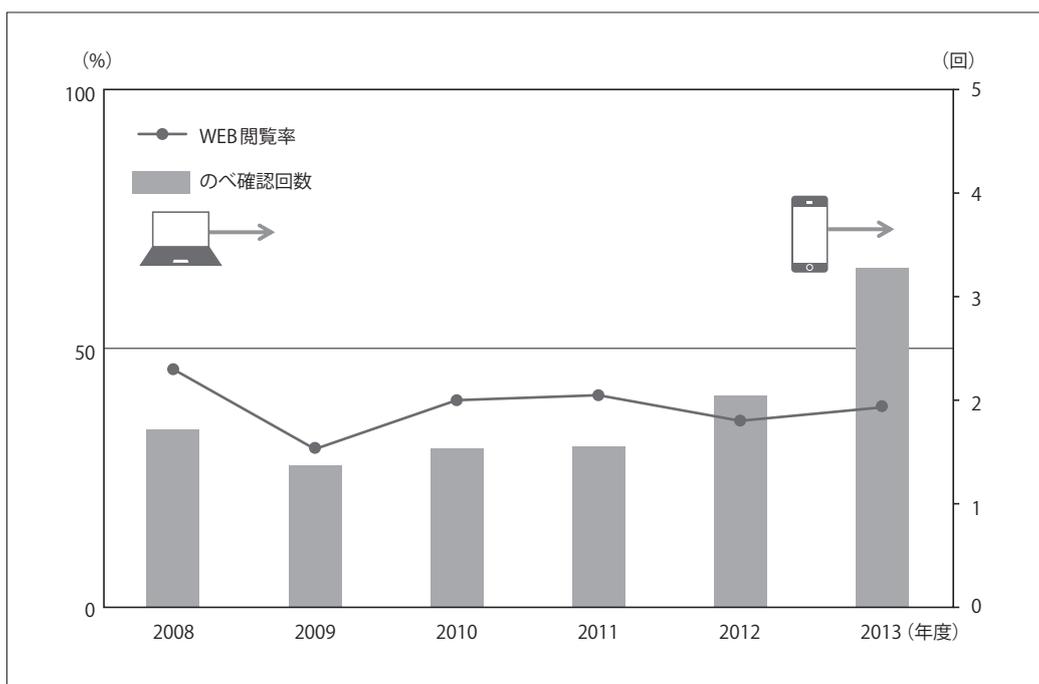


図4 WEB閲覧率と, のべ確認回数

動発行機が77.1%) だったのに比し、2013年度は、総発行数8,275枚(窓口発行が6.2%, 自動発行機が93.8%)と、総発行数に変化はないが、自動発行機利用者の割合がはるかに高くなっていった。

4. WEB閲覧率と、のべ確認回数(図4)

年度別に、WEB確認率(ID固有)とのべ確認回数の推移をみた。過去6年間で、WEB確認率は40%前後と特に大きな増減はみられなかった。しかし、スマートフォン対応のシステムを導入した2013年度は、のべ確認回数が1~2回から3回と増加していた。

5. 学部系統でみたWEB閲覧率(図5)

学科系統別(文系, 理系, 医薬看系)にWEB閲覧率を比較した。理系や医薬看系の

ほうが、健康に興味がある者やWEB利用者が多いかと予測したが、どの系統も30~40%のWEB閲覧率であり、大きな差はみられなかった。

6. アクセスログ解析(図6)

WEB閲覧において、システム利用者のアクセスログ解析を行い、端末, 接続元を分析した(2013年度データ)。PCとスマートフォンの利用割合をみたところ、PCが72.3%, スマートフォンが27.7%であった。PC, スマートフォンからのアクセスは、それぞれ学外からのアクセスが多かったが、特にスマートフォンの94%は学外からのアクセスであった。

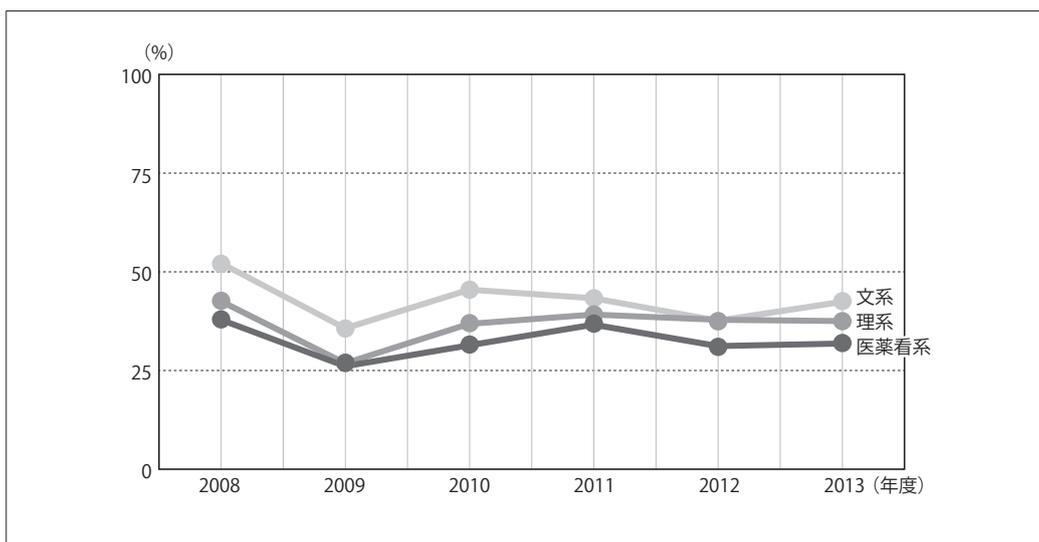


図5 学部系統でみたWEB閲覧率

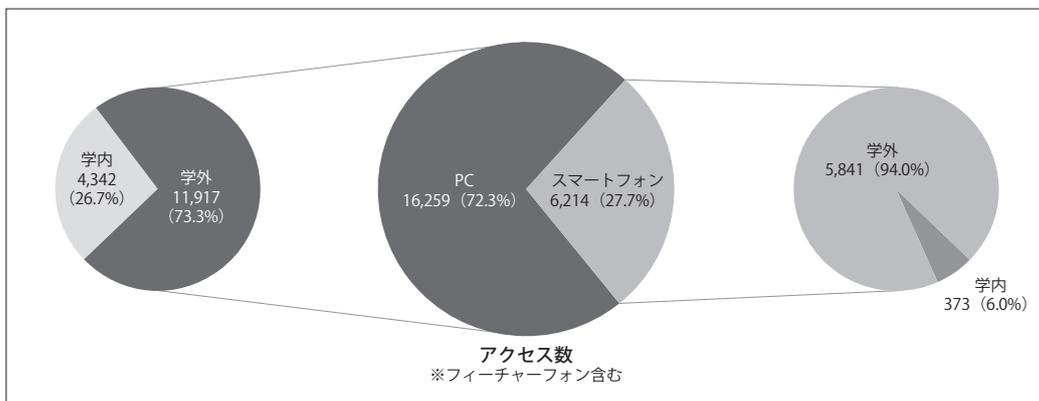


図6 アクセスログ解析(2013年度)

考察

近年、ほとんどの学生がPCを利用するようになったため、PC、スマートフォンなどモバイルデバイスから結果がみられる仕組みを推進する方向にある。自動発行機の利用については、学事システムとの連携で、常にデータが更新されるようになり、自動発行機から出力できる証明書が増えた。成績証明書や学割証など、各種証明書が自動発行されており、同時に発行される利便性などから利用者が増加していると考えられた。また、スマートフォン利用者の増加により、結果を何度か閲覧して利活用している者が増加していることが推測された。スマートフォンでの閲覧は、体育などの授業での利用よりも、自宅で結果を確認したり、父兄や医療機関に結果を見せている可能性も考えられた。これら結果閲覧率は結果閲覧率を向上させるための基礎データとなるため、アクセスログ解析によるモニタリングを行っている(図7)。モニタリングにより、各キャンパスにおける掲示や授業での案内など、リアルタイムでの広報が可能である。

システム化により健診結果の利用価値はある程度上がるとはいえ、多くの者は、就職やアルバイト、免許取得のための証明書がほしい、体

育を履修したい、という理由で、健診を受診する、結果を取りに来ることがほとんどである。一般にも、多くの者は健診結果をもらっても利活用することは少ない<sup>2), 3)</sup>。各大学では、受診しないと体育科目の履修や学割証の発行、大学で紹介するアルバイトへの参加ができないようにしたり、健診結果を閲覧しないと成績証明書が確認できないなど、必ず閲覧させるような仕組みが検討されている。ペナルティによるマイナスストロークではあるが、ある程度の規制を設けなければ、受診行動や結果を閲覧したり活用したりする行動に結びつかないというのが現状である。本質的な部分では、学生は健診やそのデータ利用価値をまだ見だせていないと思われる。ただ結果を返却されるよりも、結果の面接を行い、保健指導することにより、健診の意義を感じてもらえるという意見もあるが<sup>4)</sup>、大規模大学ではマンパワー的な限界も生じるため、集団教育にならざるを得ない。自分の健康情報データを財産であると認識し、かつ、健康への関心と行動を促すヘルスリテラシー教育施策としても、健診結果をすべての者が確認し、理解し、活用できるよう、様々な視点からアプローチすることが必要である。

**保健管理センター学生健診のお知らせ(学部別統計)**

2015-02-14 11:03:14 現在

システム利用率: 総利用者数/学生数

総利用者数: 学生IDで正規化した利用者数(1ユーザーは必ず1とカウント)

のべ利用者数: 総利用回数(1ユーザーで複数カウント)

- 学内: 学内ネットワークからのアクセス数
- 学外: 学外ネットワークからのアクセス数
- ( )内はアクセス数のうち、スマートフォン利用者数

健診結果閲覧率: 総閲覧者数/学生数

総閲覧者数: 学生IDで正規化した健診結果閲覧者数(1ユーザーは必ず1とカウント)

「学生数」= 学事登録上の学生数  
\*健康診断の受診者数ではない

学部	学生数	システム利用率	総利用者数	のべ利用者数			健診結果閲覧率	総閲覧者数
				計	学内	学外		
三文2年	846	30%	260	507 (147)	38 (10)	469 (137)	23%	200
三文3年	839	29%	245	440 (94)	61 (7)	379 (87)	24%	209
三文4年	905	28%	256	424 (84)	52 (9)	372 (75)	22%	206

図7 学部学年別のアクセスログ集計画面 (2014年度)

## 結語

今後、100%結果返却を目指すためには、ヘルスリテラシー教育施策とともに、健診結果を閲覧しないと体育履修が出来ない、成績証明書が確認出来ない、学割証の発行に制限がかかるなど、必然的に閲覧する仕組みや、学生個人サイトへのアクセス時リンク設置などを検討することが必要である。

## 文献

- 1) 学校保健安全法施行規則 最終改正：平成二六年七月二日内閣府・文部科学省・厚生労働省令第二号  
<http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S33/S33F03501000018.html> (cited 2015-02-14).
- 2) 吉高淳夫, 中条忍, 加藤洋. 情報処理学会研究報告. HCI, ヒューマンコンピュータインタラクション研究会報告 2014 ; 157 (18), 1 - 6.
- 3) 當仲香, 大貫亮. 大学保健管理施設で取り扱う医療データとその利活用. 慶應保健研究 2014 ; 32 (1), 21-26.
- 4) 佐々木智子, 他. 大学生を対象とした健康行動を促すための定期健診の活用. 聖路加看護学会誌 1998 ; 2 (1), 8 - 13.